

聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554) 1710 Fax 042(554) 5562 振替・00150-6-34971

巻頭言

「みことばに基づく訓練の場として」

聖書神学舎教務主任 遠藤勝信



昨年来、聖書宣教会が直面している大きな課題を共に担い、祈りによってご支援くださる皆様に心より御礼を申し上げます。聖書宣教会が、財政面、運営面のみならず、霊的な面におきましてもさらなる整えを頂いて、御心にかなうあり方で、諸教会、また教会の主であられるキリストご自身にお仕えして行くことができるように、続けてご指導、ご加禱くださいますようお願い申し上げます。

2008年に迎える創立50周年という節目を意識して、これまでの歩みを振り返り、またこれからの歩みを展望して行くなかで、決して見過ごしてはならない問題として、この出来事を直視し、悔い改めへと導かれています。私どもは、これを単に運営上、財政上の問題としてではなく、霊的なことがらとして扱い、これまでの教育のあり方そのものを再考するきっかけとしたと願っております。

そのような取り組みがなされるなか、私自身も、これまでこの学舎から何を学び、また何を教えられてきたのかを思い起こしています。

それは、何よりも「みことばに基づいて生きる」という信仰者のあり方を、自らのうちにしっかりと養うための訓練であったと思います。みことばを学ぶ姿勢が問われてきました。じっくりとみことばを見つめ続ける忍耐。神の御心を自分の心の耳で聞くまでは、そこから離れない忍耐力の養いです。聖書宣教会がこれまで最も力を入れてきたと言える「原典による神学教育」とは、単に、聖書語学を身につけるとか、釈義の方法を学ぶということではなく、それは、「みことばを、しっかりと見つめ続ける忍耐」を養うための訓練であったと理解しています。

それは、小手先で説教をしたり、牧会する安易さに対する警鐘でもありました。みことばを通して神が教会に語ろうとすることを十分に聞こうとせず、その浅い聖書理解の上に説教者自

身の人生哲学や個人的体験を積み上げた説教には、もはやみことばの乳を慕い求める教会の群を豊かに養う力など望めないのだと。まずみことばの権威の前に頭を垂れ、みことばを語られる神ご自身を真に恐れることこそが説教者に、また牧会者に求められていると教えられました。

この視点は、神学の学びにおいても意識されており、かつての宗教改革者の視点に立つこと、すなわち、既成の神学体系や組織神学の外枠に向かうまえに、まず、みことばそのものに、と促されました。'Systematic(組織的・体系的)'であろうとすることで、神の知恵の豊かさ、また神礼拝の奥深さをあまりに狭い枠組みの中に押し込めることになってはいけなさと。「聖書宣教会は神学が弱い」と批判されることがありますが、むしろ、その神学がより確かな基盤に基づいたものとなるために、根気と忍耐が求められる道を選ぼうとしているのだと理解しています。

この「みことばに基づいて」という視点が不徹底ですと、教会は、神ご自身と向き合い続けること、みことばから忍耐深く聞くことをすぐに諦め、「現状への配慮」とか、「世の人々のニーズ」といったところで発想してしまいます。現状肯定の傾向の強い心理学やカウンセリング理論に基づいた牧会の視点、流行りの神学、目新しい宣教のアプローチに安易に飛びつく姿勢も厳しく問われました。

この学舎が、すべての歩みにおいて神を恐れ、神のご主権の前にへりくだり、「みことばに基づいて」というあり方においてさらに慎重であることができ、この点において、思慮深く、忍耐深い牧会者を教会に送り出していくことができるように、覚えて、お祈り頂ければ幸いです。

「この方は主を恐れることを喜び」(イザヤ11:3)

聖書神学舎教師会議長 津村俊夫

時が満ち、ダビデの王座に着くためにおいでになった方。その上に主の霊がとどまっているお方にとって、「主を恐れること」とは何であったのでしょうか。ゲッセマネの祈りは、それが父なる神のみこころを行うことであったことを教えています。「しかし、わたしの願うようではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」(マタイ26:39)

私たち信仰者にとって、何がいちばん大切かと言って、神のみこころに従うことほど大切なことはないでしょう。この神のみこころを、みことばからいつも確認して、みことばにお従いすること、これこそがキリスト者のなすべきコンプライアンス(法令遵守)です。この世の法令に従うことはこの世に置かれている私ども人間が為すべき最低限の事柄ですし、起こした事柄に対するアカウントビリティ(説明責任)は、指導的な役割を与えられている者たちにとっての為すべき当然のことです。神学校が、神に対

して、教会に対して、この二つのことを、神を恐れる者として、行い続けなければならないことを本当に痛い経験を通して教えられています。「ご自身を恐れる者と親しくされ」(詩篇25:14)る主に信頼して、主のなさるみ業に参加させていただきたいと願うのみです。

2005年度が終わろうとしている今、この時に、3年ないし4年の訓練を主から受けた10名の研修生を諸教会に送り出し、新たに研修生を迎える準備をさせていただけることは、何よりも主の大きなあわれみです。教師会では、研修生に対する、知的・霊的・实际的な、トータルな訓練を施すことが出来るためには、どのようなカリキュラムや教師・研修生の関わりが必要であるかを祈りつつ検討しています。教師陣の更なる充実が必要ですが、今年度より、石川由紀子先生が教会音楽科で教え始めてくださっていることも感謝したいと思います。引き続き、皆様のお祈りを心からお願いいたします。

「続けてお祈りください」

聖書宣教会会長代行 松元保羅

主の御名を賛美します。主のあわれみを覚えつつ厳しいお取り扱いを受けております私ども聖書宣教会は、諸教会および諸兄弟の祈りとご支援を頂き、昨年一年間の歩みを許され、新しい年を迎えさせていただいております。皆様のご愛と主にある忍耐を覚えますとき、ただただ感謝の思いで一杯です。

前号の聖書宣教会通信で報告させていただきましたように、私ども聖書宣教会は、責任役員会、評議員会、教師会を中心に、二度とこのたびの過ちを起こさないための方策を検討しつつ、霊的な意味も含めて、再建のための歩みを始めております。

責任役員会のもとに、規約および運営の在り方、また財政再建のために各小委員会を設け、

具体的な検討を始めました。各方面のご協力と必要な時間を主に与えていただきつつ、主のみこころにかなう新しい体制と方向を見出したいと願っています。ぜひ今後も続けて、お祈りいただけますようお願い申し上げます。

なお、約10年間にわたって聖書宣教会を祈り支えるために活動して来てくださった「祈りの群」が、聖書宣教会が悔い改めをもって新しい歩みを始めた機会に、昨年9月をもって解散されたことの報告を受けております。いままでの祈りとご支援に心から感謝をしております。「祈りの群」自体は解散されましたが、今後とも、聖書宣教会は皆様方の祈りの支援を何よりも必要としております。引き続きお祈りとご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

宣教地から「変わらない神のみことば」

聖書神学舎第14期卒 中尾邦三

私は、日本での15年の伝道と牧会の後、留学中に、アメリカ在住の日本人への伝道と牧会の重荷を与えられ、1991年より、カリフォルニア州の南端の町、サンディエゴで9年、「シリコン・バレー」と呼ばれる、サンフランシスコ湾南部で5年働いてきました。

ひとくちに「アメリカ在住の日本人」と言っても、多種多様で、戦前からの「一世」、アメリカで生まれ日本で教育を受けた「帰米二世」、戦後アメリカン・ドリームを求めてやって来た「新一世」、また、アメリカ人と結婚した「国際結婚者」、それに、私たちが「駐在員」と呼んでいる、日本からの派遣社員とその家族、また「留学生」などがあります。教会には、それぞれに、背景も、求めるものも違う人々が集まっています。

「キリスト教国」であるアメリカでの伝道は、

日本で感じたような外部からの圧迫がなく、人々の心も信仰に対して開かれています。そうした祝福とともに、小さな日本人コミュニティがかかえる複雑な問題も多数あります。日本ではアメリカナイズされて無くなってしまった物の考え方や感じ方が、良いものも悪いものも、ここには根深く残っています。そんな中で「自分はずいぶん特殊な伝道をしているのだなあ」と感じることがあります。

しかし、対象の多様性や環境の特殊性にかかわらず、私は、神のみことばを神のみことばとして語るよう努めてきました。語る対象がだれであっても、みことばが語られ、教えられるなら、人々がキリストに導かれ、キリストにあって成長する姿を見てきました。聖書神学舎で「みことばへの姿勢」を諸先生方から教えていただいたことを、本当に感謝しています。

〈家族寮の風景〉

一見普通のコーポといった外観の家族寮2棟。しかし、そこで繰り広げられる人間模様は、「江戸長屋」にも似た風景だ。

「ちょっと、卵1個貸してくれる？」とお隣へ。子どもたちもまるで兄弟のように仲が良い。人を見れば「不審者と思え」といった風潮の昨今では、見られなくなった姿とも言えよう。隣の家族が風邪をひけば祈り合う。まさに「神の家族なり」と言いたいところだが、普通にトラブルもある。献身者の家族といえども、当然考え方も感性も違う。一体何をもって一致できるのだろうか。この家族寮の住人の共通点は？と突き詰めて考えていった結論は、「皆同じ罪人である」ということだった。「主に贖われ、主の似姿に変えられつつある罪人」は、それぞれに抱いている「信仰の一致」という概念をもっては、決して一致していけないだろう。ここでも、共に主を見上げる「礼拝者」としての姿勢が問われている。

「あっ、お隣にタッパー返すの忘れてた！」

(T)

聖書宣教会ウェブサイトのお知らせ

聖書宣教会では、以下のURLにてウェブサイトを開設していますのでご利用ください。

<http://www.bibleseminary.jp/>

下はサイトの一部の写真です。随時変更していますので、実際にはこれと異なる場合があります。



2006年度 聖書宣教会講座案内

聖書宣教会では今年も次のようなプログラム、講座を予定しています。5月13日(土)のオープン・デイ「公開授業」を始め、聖書科、教会合唱講座はどなたでも参加できます。ご利用をお待ちいたします。

オープン・デイ — 5月13日(土) —

	I ~ II (8:20 ~ 10:00)	(10:05 ~ 10:35)	III ~ IV (10:50 ~ 12:30)
本1年	ギリシャ語	チャペル	新約通論
本2年	組織神学Ⅲ(人間論)		旧約緒論
本3年	聖書解釈学		牧会学Ⅱ(カウンセリング)
本4年	中間時代史		宣教史
音3年	教会音楽史		教会音楽特論

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

第23回 教会音楽夏期講習会

期 日：7月25日(火)～27日(木)
場 所：聖書宣教会
対 象：聖歌隊指導者、聖歌隊員、奏楽者、賛美・教会音楽に関心のある方
テーマ：「みことばと賛美」
内 容：講義(教会音楽の基本的理念、主題講義、聖書講義、賛美歌学(賛美の歌を学ぶ))
講義と演習(礼拝と奏楽、宗教改革期の合唱作品)
分科会(オルガン/礼拝奏法、声楽/歌唱法、聖歌隊指導法、作曲入門)
教会音楽の夕べ
講 師：聖書宣教会教師他

(このほか、聴講制度、教会音楽舎卒業生対象の継続教育講座があります。詳細は事務局まで)

第33回 聖書神学舎夏期研修講座

期 日：7月4日(火)～6日(木)
場 所：奥多摩福音の家
対 象：牧師、伝道者、及びその配偶者、牧師の推薦のある信徒
費 用：2～2.4万円程度
テーマ：「礼拝における祈り—聖書の理解を求めて」
祈りについて教える個々のみことばの理解を釈義的に深めるところから、現代の公同の礼拝における祈りの在り方の検証へと向かいたいと願います。
講 師：松元保羅、津村俊夫、内田和彦、松本任弘、岸本紘、遠藤嘉信、赤坂泉、遠藤勝信

聖書科(金曜日10:30～12:10)

前 期：「コロサイ書とパウロの思想」(赤坂泉)
4月14日～10月13日(15回)
於 ぶどうの樹キリスト教会(四ツ谷)
後 期：「ゼカリヤ書」(松本任弘)
10月27日～3月2日(15回)

教会合唱講座(火曜日19:00～21:00)

前 期：「バッハのコラールを歌う
～受難曲とコラール～」(飯島千雍子)
4月11日～10月3日(10回)
於 立川駅前キリスト教会
後 期：10月～3月(10回)

2006年度 聖書宣教会主要年間予定

2006年

4月6日(木) 入会式
4月8日(土) 前期開始
4月28日(金) ビクニック
5月13日(土) オープンデイ
5月18日(木) 祈りの日
7月1日(土)～8月30日(水) 夏期調整期間
7月4日(火)～7月6日(木) 聖書神学舎夏期研修講座
7月25日(火)～7月27日(木) 教会音楽夏期講習会
7月中旬～ キャラバン伝道
8月31日(木) 帰寮日
9月6日(水) 前期再開
10月13日(金) 前期終了
10月14日(土)～10月25日(水) 秋期調整期間

10月17日(火)～10月18日(水) リトリート
10月26日(木) 後期開始
11月11日(土) 第24回賛美礼拝
11月15日(水) 祈りの日
12月17日(日)～1月8日(月) クリスマス調整期間

2007年

1月9日(火) 後期再開
2月5日(月) 入会試験
2月11日(日) 信教の自由を守る日
2月17日(土) 教会音楽のひとつとき
3月8日(木) 卒論発表会
3月10日(土) 後期終了
3月12日(月) 第48回卒業式

編集後記

格別に厳しい冬でしたが、学舎の中庭には春の気配を感じるようになりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。学舎も春には10名の卒業

生を送り出し、7名の本科生を迎えて、新たな歩みが始まります。いのちを与え、支えてくださる主を賛美します。(A)